

## 老年看護学演習

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 野里 同 准教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	3	区分・時間数	演習 22.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

老年期は、身体の諸機能が低下するが、衰退現象のみに視点を置くのではなく、高齢者の持てる力に注目し、セルフケア能力を活用した自立・自律の援助が大切である。高齢者に特徴的な疾患・症状を学び、援助の必要性の科学的な根拠を持ち、個別に応じた援助ができるよう知識・技術を学ぶ。また、高齢者のセルフケア能力の向上を支援する技術・態度を習得する。さらに、最後までその人らしく生きることを支援する方法を身に付ける。

### ・教育成果（アウトカム）

高齢者の生活機能の視点からアセスメントすることで、もてる力に焦点をおいた看護過程の展開ができる。対象者のもてる力を引き出す援助を意識することで、環境を整え強みを活かす支援を身につけることができる。高齢者のこれまでの生活習慣や特徴的な疾患・症状を学ぶことで、障害をもちながらも生活する高齢者や家族の思いに対して理解を深め、チームアプローチや社会資源の活用方法の実際を考えることができる。個々の生活の場に応じた援助の方法やその人らしく生きることを支援する看護実践を習得できる。

#### 【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 7, 8

### ・到達目標（SBO）

1. 高齢者の生活機能の視点からアセスメントし、目標志向型の看護過程の展開ができる。
2. 高齢者の生活の場が変化することを学ぶことで、多職種との連携や社会資源の活用方法を説明できる。
3. 高齢者の回復過程に応じた看護を理解し、もてる力を引き出す看護を実施できる。
4. 高齢者の生活史を理解することで、尊重した態度を身につけることができる。
5. 認知症の症状をアセスメントし倫理を含めたケアについて理解し実践できる。
6. その人らしく生活できる生活指導について説明できる。

・ 授業日程

(矢) マルチメディア教室、他

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/5	月	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	ガイダンス 高齢者の生活を支える看護の実際 高齢者のフィジカルアセスメント
4/6	火	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者体験 ・ 高齢者の加齢に伴う身体への変化を考慮した援助が実践できる
4/6	火	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者のもてる力を引き出す援助① ・ 運動麻痺のある患者の環境を整えることができる ・ 運動麻痺のある患者の拘縮予防を考慮したポジショニングができる
4/12	月	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者のもてる力を引き出す援助② ・ 運動麻痺のある患者の残存機能を活かした移動、起立、移乗が実施できる
4/12	月	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者のもてる力を引き出す援助② ・ 運動麻痺のある患者の残存機能を活かした移動、起立、移乗が実施できる
4/23	金	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者のもてる力を引き出す援助③ ・ 運動麻痺および嚥下障害のある患者のセルフケア能力を活かした食事介助と口腔ケアが実施できる

4/23	金	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者のもてる力を引き出す援助③ ・運動麻痺および嚥下障害のある患者のセルフケア能力を活かした食事介助と口腔ケアが実施できる
6/14	月	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	脳梗塞による運動麻痺をもつ患者の看護 ・運動麻痺が生活に及ぼす影響を説明できる ・その人らしく生活できるための支援方法を考え、考えた内容を説明できる ・グループワークを行いディスカッションで得られた内容を発表できる
6/15	火	1	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者の生活を支える援助① ・皮膚が脆弱化して発生した褥瘡のケアが実施できる
6/15	火	2	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者の生活を支える援助① ・皮膚が脆弱化して発生した褥瘡のケアが実施できる
6/22	火	1	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者の生活を支える援助② ・関節拘縮および筋力低下を予防するためのケアが実施できる
6/22	火	2	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者の生活を支える援助② ・関節拘縮および筋力低下を予防するためのケアが実施できる

6/29	火	1	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者の生活を支える援助③ ・関節拘縮のある患者の全身清拭、寝衣交換、オムツ交換が実施できる
6/29	火	2	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	高齢者の生活を支える援助③ ・関節拘縮のある患者の全身清拭、寝衣交換、オムツ交換が実施できる
7/13	火	2	地域包括ケア講座	野里 同 准教授 館向 真紀 特任講師 菊池 佑弥 助教	認知症もつ患者の看護 ・認知症が生活に及ぼす影響を説明できる ・その人らしく生活できるための支援方法を考え、考えた内容を説明できる ・グループワークを行いディスカッションで得られた内容を発表できる

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	高齢者看護の実践 第5版	堀内 ふき他	メディカ出版	2021
教	高齢者の健康と障害 第6版	堀内 ふき他	メディカ出版	2021
参	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第3版	山田 律子他	医学書院	2016

・成績評価方法

筆記試験 70%、演習の取り組み 30%とし総合的に評価する。

\*演習の取り組みは、指示に応じて行動ができることや提出物などで評価する。

・特記事項・その他

**【事前事後学修の具体的内容及び時間】**

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）をした上で授業に臨むこと。演習の開始前には、“Webclass”や“e ナーストレーナー”にある動画を視聴し、演習で行う内容をイメージした上で臨むこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。グループワークなどアクティブラーニングを取り入れ、問題解決方法やコミュニケーション能力を身につける。

**【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】**

技術に関するフィードバックは、その都度、指導し学生個々の技術の習得に努める。レポートに関しては、コメントを記載し学生に返却する。内容に不足があった場合は、個人指導を行う。

**【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】**

看護師（別表 3）：専門分野Ⅱ 老年看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター（VPL-FHZ55）	1	講義用スライド投影
演習	車いす	8	移乗動作の練習
演習	杖	7	歩行訓練時に使用
演習	義歯	10	口腔ケア（義歯の洗浄）
演習	万能型看護実習モデル“八重”	12	